

「お祭り騒ぎ」を通して考える「これからの建築士像」

はじめに：グローバルか？ローカルか？

急速にグローバル化しつつある現代社会において、建築士の担う役割はどのように変化しているのだろうか？インターネットや交通手段の発達により、能力とやる気さえあれば日本のみならず世界中で仕事をする機会を得ることができるようになりつつある。建築に携わる者としては、世界を股にかけて仕事をしてみたいと思う気持ちは少なからず持っているだろう。そうした中で、ローカル（地域）の持つ意味は如何なるものだろうか？もはや地域性は希薄になりつつあるのだろうか？否、むしろ逆だろう。外国を旅すると今まで意識することのなかった自国を強く意識することがあるように、グローバル化とローカル性はまさに表裏一体の関係にあり、グローバル化が進めば進むほど、結果としてローカル性も強く自覚することになる。つまり現代のグローバル社会でこそ、自分の出自でもあるローカル性について考えることが重要になるのである。

今回、縁あって「建築士として地域で何ができるか？」というテーマで文章を書く機会を得た。ちょうど個人的に「地域活動の可能性」を模索していたこともあり、今までの自分の経験と思考を整理、発展させるチャンスとして捉えたい。

構成としては、まず最初に「建築士の職能」について簡単に振り返り、それを踏まえた上で「地域活動参画」へと至る個人経験談、さらに議論を一般論として発展させることにより「地域で何ができるか？」「まちの活性化への貢献」について考え、最後に「これからの建築士像」に少し触れたいと思う。

建築士の職能

建築士の仕事としては言うまでもなく「建てる」ことが挙げられるが、果たしてその本分は一体どこにあるのだろうか？言い換えれば、「建てる」ために必要とされる能力とは何だろうか？専門知識、技術力、創造力、管理能力、コミュニケーション力などが挙げられるが、その中で特筆すべきものは？

個人的に建築士として最も必要な能力は「統合力」だと思う。法律、予算、要望などの人的条件に始まり、気候・風土、敷地状況、材料特質などの自然条件、さらには建築主、設計者、施工者としての各々の立場など、往々にして相矛盾する多様な要求のいずれをも疎かにすることなく一つの到達点に統合させる、そこに建築士としての本分が発揮されるのではないだろうか。

さらにもうひとつ付け加えるなら、「演出家」としての側面が挙げられる。住宅設計を例にとると、「住宅建築をつくる」のではなく、「住人生活を演出する」と考えるべきであろう。専門的知識と情熱をもって、建築という舞台装置を最大限駆使し、主役である建築主の生活を最高に輝かせることこそ、建築士としての仕事の醍醐味と言えよう。

では、建築士の職能を上述のように捉えることにより、どのような可能性が考えられるだろうか？「建てる」ことだけにこだわらず、様々な人間活動を「演出する」という視点に立てば、建築士としての可能性も自ずと広がることになるだろう。「建てる」という選択肢はあくまで「演出」方法の一つであり、場合によっては「建てない」ことを選択する勇気も必要ではないだろうか？これからの建築士には、人間活動全般に関わる総合的な「演出力」が求められるであろう。

地域活動への参画

組織設計事務所に5年勤務した後、自分の看板を掲げてから早7年、気がつけば地域活動参画への道を徐々に歩みつつあるのに気づく。その経緯を振り返ることにより、「地域」について考えるきっかけとしたい。

独立当初は自宅マンション兼事務所として活動を開始したが、その閉塞感ゆえ社会との繋がりが希薄になりつつあることに不安を感じる。ちょうど2年ほど経ったころ、両親が35年続けた店舗に幕を下ろすのをきっかけに、その空き店舗を自身の事務所として再生、利用することにした。これを機に「本に囲まれ、珈琲の香りのする」場で仕事がしたいとの夢も同時に実現すべく、Cafe併設の設計事務所としてスタート。様々なイベントを開催し、交流の場として事務所を地域に開放する。

同時にその頃から、通勤途中で点在する個人商店が次々と空き店舗へと変貌するのを目の当たりにし、自分だけではなく「まち全体としての活性化」の必要性を実感する。「自分が幸せになるには、まず隣人に幸せになってもらうべし」という発想から、「地域活動」への参画を意識し始める。いくら一般に開放しているとはいえ、自分の事務所に籠っているには限界がある。自分から「まちなか」へ飛び込むことにより、地域住民の一員として積極的に活動を展開する方向を目指す。

とは言うものの、一人でできることには限界がある。そこで所属していた大阪府建築士会の地域サークル「建築士の会東大阪」メンバーと協働で地域活動に参画。手始めに、地元の市民祭り「ふれあい祭り」に参加し、市民との交流を図るとともに、さらなる地域活動参画への道標とする。次の展開についてはまだ模索中だが、昨年の「ふれあい祭り」初参加をきっかけに「わくわく建築倶楽部」との愛称を掲げ、「豊かな住まいは、豊かな人間を育成し、豊かな地域社会を紡ぎだす」をテーマに、建築士ならではの地域活動を開始。8年前より継続している、わがまち散策イベント「わくわく探検」や地元名建築を探访する「建物見学会」などとも連携し、地域住民との交流・協働を通じて東大阪を活性化すべく、さらなる活動拡大を目指す。



事務所を Archi-Café として一般に開放
勉強会などを開催し地域住民との交流の場

地域で何ができるか？

「建築士の職能」と「地域活動参画」への経験談を踏まえ、「建築士として地域で何ができるか？」について具体的に考えてみよう。

地域活動を通じ様々な人々と接するうちに、我々建築士と一般住民の方々との間のギャップを強く実感するに至る。例えば住宅設計を例にとっても、建築主側はまず最初に経済性・安全性・機能性を考えるのに対し、建築士はそれらを当然のこととした上で、デザイン性の向上などに専念することも多く、ここにギャップが生じる原因がある。つまり、建築主と建築士の「常識」がすでに異なるのであり、そこを意識しておかないと、経済性・安全性・機能性を疎かにしていると誤解される。そうした誤解を解消する努力をするのも我々の重要責務である。

また「建てる」という人生の一大イベントを託される建築士には、「信頼」される人物であることが必然的に求められる。その「信頼」は如何にして獲得できるのか？見知らぬ人物を信頼することは基本的にはあり得ないのであり、顔を突き合わせてコミュニケーションを図るのが最善の道である。そのためにも、身近な地域にしっかりと向き合い、意思疎通を図ることによりお互いの想いを肌で感じることの意義は大きい。

その貴重な機会の一つとして、地元の「お祭り」は非常に興味深い。不特定多数の人々とこれほど自然な形でコミュニケーションを取ることができるチャンスはそうあるものではない。このような機会を最大限に利用し、地域住民と活発に交流を図ることにより、建築士として何が求められているかを肌で感じると共に、我々の存在と職能を広く知ってもらうことが可能になるのである。そうしたface to faceのコミュニケーションこそが、お互いの信頼感を育み、建築士と地域住民の協働作業へと自然に繋がることになるだろう。その結果、豊かなまち、豊かな地域社会が実現すれば、うれしい限りである。

「自分が属する地域に対して、一個人として、さらには建築士という職能を生かして何ができるのか？」まずそう問いかけることから始めてみよう。

まちの活性化への貢献

住宅の供給過剰、建築業界に対する規制強化、世界的な不景気の波に覆われている昨今、我々建築士は非常に厳しい状況を強いられている。この逆境を乗り切るために如何なる選択肢があり得るのか、自分自身を含めて誰もが気にかけていることだろう。周囲をぐるりと見渡してみても、建築業界に限らず景気の良い話を聞くことは少ないのではないだろうか？

自分が元気(幸せ)になるためには、自分ひとりで一生懸命がんばるよりも、まず周囲の人を元気づけてあげるのが一番早い、というのが経験的持論。仏教でいうところの「自利利他の精神(自分のためになること=他人のためになること)」こそがまさに「まちづくり活動」の本質であり、自分が元気になるには、自分の住むまちを活性化させるのが最も効果的。そうした発想に基づき、今後とも地域のために、ひいては自分自身のために、まちの活性化に貢献できればと思う。

最後に：これからの建築士像

これからの建築士に必要なのは、「建築の射程を如何に拡げるか」ということに尽きると思う。建築士とは「建てる」ことを託されたいわば特権階級だが、そこにこだわることなくその職能を最大限に活用し、その活動範囲をどこまで拡げることができるのか、そこをしっかりと考える必要があるのではないだろうか。「建てる」という特技を備えつつも、それだけに固執することなく、「統合者」「演出家」としての職能を存分に発揮できる場を模索することにより、新しい可能性が開けてくるのではないだろうか。その答えの一例として、今回は個人的に興味を抱いている「まちづくり活動への参画」を挙げたが、他にも既成概念に捉われない新たな活動領域がまだまだあるように思う。

気晴らしに、「建てる」という「ど真ん中の建築」から少し目をそらし、建築士としての新しい可能性を探ってみてはどうだろうか？もしかすると意外なところに、新しい建築士像が潜んでいるかもしれない。



「わくわく建築倶楽部」として「ふれあい祭り」出店
 行列のできる店として大繁盛!!



協働作業を通じたコミュニケーション
 「合板ドーム」は子供たちにも大好評!!